

長崎県公立大学法人の平成25事業年度
に係る業務の実績に関する評価結果

平成26年8月

長崎県公立大学法人評価委員会

目 次

長崎県公立大学法人の平成25事業年度に係る業務の実績に関する評価結果

| | | |
|---------------------------|-------|----|
| 1. 全体評価 | | 1 |
| 2. 項目別評価 | | |
| (1) 大学の教育研究等の質の向上 | | 2 |
| (2) 業務運営の改善及び効率化 | | 6 |
| (3) 財務内容の改善 | | 11 |
| (4) 自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供 | | 7 |
| (5) その他業務運営 | | 11 |

◎項目別評価の結果

| 区 分 | 項目数 | I | II | III | IV | III以上(%) |
|--------------------------|-----|-------|-------|---------|-------|----------|
| I 大学の教育研究等の質の向上 | 72 | 0 (0) | 7 (5) | 58 (60) | 7 (7) | 90.3 |
| II 業務運営の改善及び効率化 | 10 | 0 (0) | 0 (0) | 10 (10) | 0 (0) | 100.0 |
| III 財務内容の改善 | 2 | 0 (0) | 0 (0) | 1 (1) | 1 (1) | 100.0 |
| IV 自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供 | 4 | 0 (0) | 0 (0) | 4 (4) | 0 (0) | 100.0 |
| V その他業務運営 | 3 | 0 (0) | 0 (0) | 3 (3) | 0 (0) | 100.0 |
| 合 計 | 91 | 0 (0) | 7 (5) | 76 (78) | 8 (8) | 92.3 |

注) ()内の数字は、法人の自己点検・自己評価の結果

IV…「年度計画を上回って実施している」
 III…「年度計画を順調に実施している」
 II…「年度計画を十分に実施できていない」
 I…「年度計画を実施していない」

長崎県公立大学法人の平成25事業年度に係る業務の実績に関する評価結果

長崎県公立大学法人評価委員会は、「長崎県公立大学法人の評価の基本方針」及び「長崎県公立大学法人の各事業年度終了時の評価に係る実施要領」に基づき、長崎県公立大学法人の平成25事業年度に係る業務の実績に関する評価を行った。

1 全体評価

第2期中期計画期間の3年目となる平成25年度は、これまで検討されてきた外国語教育の改革、国際交流学科における語学研修の必修化、全学教育への「長崎を学ぶ」科目群の新設などに加え、他の事項においても、検討・改善を図りながら取組が進められており、中期計画の達成に向けて着実に前進した年度となっている。

特に、学生の課題探求能力や問題解決力を養成する「しま」体験教育プログラムについては、全学教育科目において「しまを学ぶ」科目群が新設され、平成26年度入学生からの順次必修化の決定に加え、本プログラムの実施を含む「長崎のしまに学ぶ 一つながる とき・ひと・もの」が文部科学省の「地（知）の拠点整備事業」に採択されたことは評価できる。

また、前年度に引き続き、包括連携協定を締結している3市町及び県や民間企業等と連携して多彩な事業を実施したほか、新たに県内の5市町と包括連携協定を締結したことは評価できる。

その他、海外留学生の受入れ、研究論文の学術誌等発表、新たな国際交流協定の締結、東アジア研究ネットワーク登録、外部資金の獲得が順調に推移していることも注目される。

語学運用能力の養成に係る取組については、TOEIC や中国語検定の対策強化等の学習支援を行うとともに、国際交流学科にあっては平成25年度入学生から海外語学研修を必修化するなど一定評価できるが、第1期中期計画期間から目標とする水準を大きく下回った状態が続いている。目標達成に向け、さらなる教育体制等の整備・強化を求める。

また、大学院の定員については、平成25年度においても未充足となっている。適切な定員規模や輩出する人材等を含め、社会のニーズに合致した大学院のあり方を改めて検討していくことを求める。

なお、実績報告書に係る記載内容について、今年度は一定整理されており、改善が認められたが、一部の年度計画においては、計画内容及びそれに対する実績の記載が不十分な箇所が見受けられる。実績報告書は適切な評価を行ううえで、基本となる資料となるため、より適切な記載を求める。

評価委員会の全体評価としては、多くの事項について年度計画を達成しており、着実な成果をあげていると認められるが、引き続き、未達成となっている事項の改善を図りながら、「地域に根ざした大学」「選ばれる大学」を目指し、学長のリーダーシップのもと取組を進めることを期待する。

2 項目別評価

(1) 大学の教育研究等の質の向上

- ① 教育に関する目標
- ② 研究に関する目標
- ③ 地域貢献に関する目標

【法人による自己評価と評価委員会の評価が異なる事項】

- 中期計画〔12〕の年度評価 評価委員会の評価「Ⅱ」（法人の評価「Ⅲ」）
特定看護師や専門看護師（CNS）の養成課程の検討について、国や看護界の動向等に関する情報収集や県との意見交換会を実施しているものの、具体的に教育課程設置の可否も含めた検討が進捗したとは認められない。教育課程の設置については慎重な議論を要するものであるが、計画に基づいた取組を実施し、着実に議論を前進させていくことが望まれる。
- 中期計画〔13〕の年度評価 評価委員会の評価「Ⅱ」（法人の評価「Ⅲ」）
国際交流基金の設立に向けた具体的な協議について、基金に関する規程や支援内容について検討を行ってはいるものの、実現性の観点で、進捗が見られず、順調に検討が進んでいるとは認められない。国際交流基金の設立は、大学の国際化、留学生の受入・派遣の拡大を図るための有効な取組であることから、課題等を明確にして、実施可能なことから取組を進めていくことが望まれる。

平成25年度の実績のうち、下記の事項が注目される。

- 長崎県立大学の個性ある教育として、平成25年度入学生から「長崎を学ぶ」科目群が開設され、4科目配科されている。また、平成26年度からは新たに2科目が追加されており、その取組みは評価できる。今後、さらなる充実を期待する。（2）
- 「しま」体験教育プログラムについては、平成24年度に作成した共通テキストを活用して、既存科目で試行された。また、全学教育科目において「しまを学ぶ」科目群が新設され、平成26年度入学生から順次必修化することが決定された。さらに、本プログラムの実施を含む「長崎のしまに学ぶ 一つながる とき・ひと・もの」が文部科学省の「地（知）の拠点整備事業」に採択された。その取組は着実に進捗しており、評価できる。今後は、学生の主体性を促しながら、地域と連携した取組となるよう、着実に実施することを期待する。（3）

- 看護栄養学部の国家試験について、看護師、管理栄養士ともに合格率100%を達成した。特に、管理栄養士の合格率100%は開学後初めての成績であり、評価できる。引き続き、資格取得に向けた教育環境の充実を図るとともに、継続した取組を期待する。(6-3)

- 看護学科の学生募集について、平成26年度入試から「離島看護師特別枠」を新設している。県内離島病院における看護師不足を考慮しての対応であり、地域の実情、ニーズを踏まえながら、入試制度を見直したことは評価できる。(6、14-1)

- 留学生について、中国語による大学案内の作成、協定校等への配布などの広報により、受入留学生数が順調に増加し、派遣留学生数とともに計画を達成していることは評価できる。

留学はグローバルな人材養成にとどまらず、学生の人間形成に大きく寄与するものであり、引き続き、日本人学生に対して留学の有効性を周知するとともに、派遣のための各種支援策を拡充することで、派遣留学生の増加を期待する。(13-1)

- 就職率について、全学部とも昨年度に引き続き計画以上の高い水準を維持している。これは、景気が回復基調にあることに加え、大学がより情報を迅速に掴み、一人ひとりに対し細やかに対応する就職支援を行っている結果と評価する。

また、早い学年からの就業力育成は重要であり、カリキュラムを見直し、これまでの「キャリアデザイン」の科目を、平成26年度から入門編「キャリアデザインⅠ」と実践編「キャリアデザインⅡ」の講座を開講することとしたことも評価できる。(16-1、24-1)

- 長崎県や協定を締結している市町と共同して、多彩な連携事業に取り組んでいることは評価できる。

大学の研究成果等を積極的に地域に還元することは県立大学の使命の一つであり、引き続き、地域と連携して課題解決に取り組む動きが活発化していくことを期待する。特に、長崎県の多くの離島においては今後日本が抱える人口減少などの問題に直面しており、このような困難な課題に対して、長期的な視点で研究に取り組まれることを期待する。(27-1)

- 県が進めている「アジア・国際戦略」に貢献するための取組の一つとして、学長を筆頭として「上海ゼミ」を実施し、上海の地元大学との交流や長崎県から進出している企業等へ視察研修を行っている。また、重点課題研究を進めるため、「東アジア」等への研究費の傾斜配分を行っていることは評価できる。（27-2）

- 教員の論文数や学会での発表回数は前年度に引き続き計画の水準を上回っており、評価できる。
一方で、さらなる研究の質の向上を目指すことも重要であり、著名な学術誌への投稿を奨励するとともに、その掲載状況や引用数などについても併せて、実績として示すことを希望する。（29-1）

- 国際交流の推進に向けて、新たに1校と国際交流協定を締結し、計画の12校に達したことは評価できる。引き続き地域性を踏まえながら、協定校の増加を目指すとともに、締結した協定に基づき、教育、研究の両分野において交流事業が推進していくことを期待する。これまで締結した大学との交流状況を点検し、交流が少ない大学については活動の活発化を促すことを希望する。（33-1）

- 東アジア研究所で所管する「東アジア研究ネットワーク」の海外登録者が順調に増加し、計画を達成したことに加え、海外大学等との共同研究、教育研究交流の充実が図られたことは評価できる。人的ネットワークを活用したさらなる共同研究などの交流が図られることを期待する。（33-2）

- 大学の研究成果や人的資源の活用として、地域連携センターが中心となり、民間企業等との共同研究及び受託研究を着実に実施している。
さらに自治体との連携においては、現在、包括連携協定を締結している新上五島町、長与町、佐世保市に加え、新たに平戸市、五島市、壱岐市、対馬市、小値賀町と包括連携協定を締結し、その数が8市町になったことは評価できる。
（34-1）

- 地域公開講座については、開催数、受講者数は前年度をやや下回っているものの、計画を上回って実施しており、広報活動や受講者アンケートによる内容等の見直しの効果が表れたものとして評価できる。今後も引き続き、テーマや講座内容の検証に取り組むとともに、地域住民のニーズに応えるため多くの教員による幅広いテーマでの講座開催を期待する。（36-1）

平成25年度の実績のうち、下記の事項に課題がある。

- 情報メディア学科において、各種コンクールで優秀な成績を収めているが、基本情報技術者試験については、合格者が2名にとどまっており、計画を達成できていない。また、受験者数が前年度よりも大きく減少していることは、学生に対して受験を奨励する取組が不足していると考えられる。学生の資格取得を促進するため、引き続き学科全体で組織的に取り組んでいくことが望まれる。(5-2)

- 外国語運用能力について、課外学習支援及び検定試験対策講座等、個別の取組が行われ、国際交流学科においては全体的な点数の伸びが一定確認できるものの、関係する項目についてそれぞれ目標の水準を大きく下回っている。
なお、語学教育のカリキュラムについて、平成25年度入学生から抜本的な見直しを図っており、今後の成果に期待する。(7)

- 人間健康科学研究科の定員は、平成24年度に引き続き未充足となっている。研究科の説明会、PR等のみではこれまで以上の学生の確保は難しいと考えられるため、学生や社会のニーズを踏まえ、養成する人材や定員等も含めた大学院のあり方について、所要の検討を行っていくことが望まれる。(12)

- 特定看護師、専門看護師の養成に係る教育課程の取組について、毎年検討しているが、具体的な進捗があったとは認められない。国や看護界の動向等を踏まえる必要があるが、今後の取組の方向性、スケジュールなどを整理しながら検討することが望まれる。(12-2)

- 国際交流基金の設置に向けた取組について、毎年検討しているが、具体的な進捗があったとは認められない。今後の取組の方向性、スケジュールなどを整理しながら検討することが望まれる。(13-2)

本項目については、評価委員会の検証の結果、年度計画の記載 72 事項中 65 事項が「年度計画を順調に実施している」又は「年度計画を上回って実施している」と認められ、上記の各項目等を総合的に勘案すると、進行状況は「おおむね計画通り進んでいる」と判断される。

(2) 業務運営の改善及び効率化

- ① 組織運営の改善に関する目標
- ② 人事の適正化に関する目標
- ③ 事務等の効率化・合理化に関する目標

平成25年度の実績のうち、下記の事項が注目される。

- ブランド力調査に基づく「選ばれる大学」となるための方策として、広報の取組を強化することとし、その方針を策定している。(43)

- 教員の評価制度については、平成24年度に学長による評価や学生による授業評価などの評価項目を追加したうえで、平成25年度から実施しており、さらなる教育の質及び教員の意欲の向上を期待する。(45)

本項目については、評価委員会の検証の結果、年度計画の記載 10 事項すべてが「年度計画を順調に実施している」と認められ、上記の項目等を総合的に勘案すると、進行状況は「計画通り進んでいる」と判断される。

(3) 財務内容の改善

- ① 外部資金、寄付金その他の自己収入の増加に関する目標
- ② 効率的な運営に関する目標

平成25年度の実績のうち、下記の事項が注目される。

- 科学研究費等、外部資金の獲得については件数、金額ともに前年度からさらに増加しており、中期計画の達成ペースを大きく上回って進捗しているものとして評価できる。引き続き、公募に係る情報の提供をはじめとして、教員に対し外部資金の獲得を促す支援体制を整備していくことを期待する。(51)

本項目については、評価委員会の検証の結果、年度計画の記載 2 事項すべてが「年度計画を順調に実施している」と認められ、上記の項目等を総合的に勘案すると、進行状況は「計画通り進んでいる」と判断される。

(4) 自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標

- ① 評価の充実に関する目標
- ② 情報公開や情報発信等の推進に関する目標

平成25年度の実績のうち、下記の事項が注目される。

- 平成25年度から、より見やすく、使いやすいページとなるよう、大学の公式ホームページのリニューアルが行われている。その結果、日経BPコンサルティングによる「全国大学・ユーザビリティ調査」において、WEBサイトの使いやすさについて、211サイトのうち総合順位9位（前年度66位）となっており、評価できる。（55）

- 「選ばれる大学」となるための一つの取組として、戦略的な広報活動に力を入れており、今後も継続して、発信するコンテンツの充実やより効率的な情報発信の形式の模索など、積極的に行われることを期待する。（56）

本項目については、評価委員会の検証の結果、年度計画の記載 4 事項すべてが「年度計画を順調に実施している」と認められ、総合的に勘案して進行状況は「計画通り進んでいる」と判断される。

(5) その他業務運営に関する目標

本項目については、評価委員会の検証の結果、年度計画の記載 3 事項すべてが「年度計画を順調に実施している」と認められ、上記の項目等を総合的に勘案すると、進行状況は「計画通り進んでいる」と判断される。